

補習校だより

2017年1月21日発行



バハマン月になり、一段と寒い季節がやってきました。テヘランの北にそびえる山々も日に日に雪に覆われていきます。それでも最近は降水量が少ないため、上空には排気ガスがたまり大気汚染で小学校が休みになる日も多いです。

みなさん風邪をひかないよう、体調管理に努めましょう。

今月(バハマン月)の予定

第15 回目授業 1 月26 日(木) 通常授業

第 16 回目授業 2 月 2 日(木) 1 時間目 日本人学校より出前授業、
2 時間目 授業参観

第17 回目授業 2 月 9 日(木) 通常授業

第18 回目授業 2 月 16 日(木) 通常授業

行事報告 授業参観

1 月 5 日に保護者を対象とした授業参観を行いました。普段こどもたちが、どのように勉強しているか知るいい機会になりました。補習校生もお母さん方が見学していることで、いつもとは違う緊張感をもって授業に参加できたのではないのでしょうか。

保護者の4人に1人は教員や補助教員を担当している為、お子さんの様子を観に行けなかった保護者もいますので、当日の各クラスの授業内容と写真を紹介します。

1年生 『じどう車くらべ』より。色々な自動車の仕事・作りを比べ、役割について話し合いました。



2年生 『あったらいいな、こんなもの』より。今は無いけれど、未来にあったら・・・みんなが望むものを考えて、考えたもののことが分かるように発表する事を目的としています。



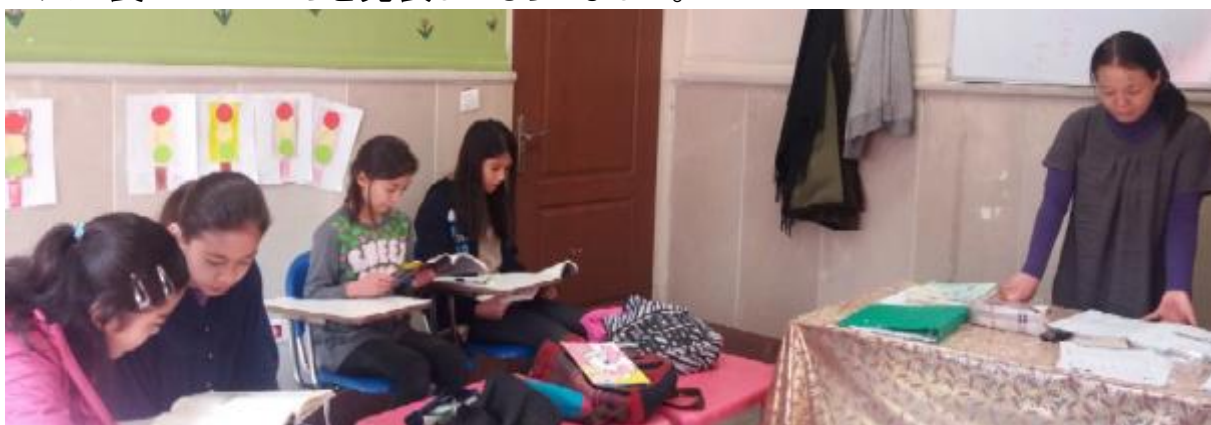
3年生 本の帯を作って、絵本の紹介をしました。帯には絵と紹介文、絵本の中で印象に残った言葉を書きました。それぞれががんばって素敵な帯ができました。



4年生 いろいろな言葉を知って使う授業をしました。ゆず湯、さざんか、木枯らし…など冬にちなんだ言葉、「勇敢な」や「魅力的な」「さっぱりした」など、思ったことや感じたことを表す言葉を使って、みんなで文章を作ってみました。



5年生 『大造じいさんとがん』を5年生ふたりで順番に音読み、聞き役の6年生に読んだ人の良かったところを発表してもらいました。



6年生 『やまなし』を6年生5人で順番に音読み、聞き役の5年生に読んだ人の良かったところを発表してもらいました。



☆☆☆作品紹介☆☆☆

1・2 年生クラス

1 年生の日記より

【こばやし するしゅ】

シャベヤルダーに、しんせきのひとたちが、おばさんのうちにあつまりました。
すいかをたべて、たのしかったです。

【こばやし しゃやん】

ぼくは、ともだちのたんじょうかいへいきました。ともだちとゲームであそんだり、ケーキを
たべたりしてとてもたのしかったです。

【あおやま あいさ】

きのう、うちにおともだちがきました。クレヨンやえんぴつでおえかきをしました。おかあさ
んにもよろこばれました。たのしかったです。

2年生 『あったらいいな、こんなもの』より

【鈴木 快実】

道具の名前：えんぴつマシーン

しゅくだいが早くおわるとうぐがあったらいいと思います。

えんぴつマシーンをつかうとテストが百点になります。

つまり、むずかしいもんだいがとけるえんぴつです。

えんぴつマシーンのとくちょうは、レインボー色で、形はふつうのえんぴつと同じです。

えんぴつのしんは、おれません。ずっととがっています。

えんぴつマシーンは、きれいに早く字を書くことができます。けいさんも早くできます。

えんぴつマシーンが、じぶんせんようなものだったらいいな。



【長谷川 アナヒタ】

道具の名前：ロリー

わたしとあそんでくれるロボットがほしいです。

人間ににているロボットです。そして12さいぐらいの女の子。

やさしくてかなしいときになぐさめてくれる子もロボットです。

ハートのポケットからいろんなどうぐが出てきます。リボンでみんなのきもちをわかってくれます。

こんなロボットができたらいいなと思います。



5・6年生クラス

詩

【モラディ モビン】

たのしみは 本をあけると ときわすれ
えともじをみて しずかによむ時

【田中 咲良】

たのしみは イランで食べる おいし〜い
日本のおかしを 味わう時

コラム

「第二言語としての日本語の勉強」

教員 長谷川可奈子

補習校に通っている子供達は、普段はイランの現地校に通っている子がほとんどのため、日本語は第二言語として覚える言語となります。

小さいうちは、母親との日常会話から日本語をそれ程苦にすることなく覚えられますが、学年が上がるにつれて、現地校の勉強がどんどん大変になっていきます。

我が家も他の家庭同様に、子供の学年が上がっていく度に、覚えることがどんどんふえていき、子供の頭の中はパンクしそうで、四苦八苦しています。

「どうしたら、日本語を少しでも楽しく勉強できるのだろう？」と私が常日頃考えている事を今回書いてみました。

《音読》

音読はとても大切です。

現在の生活の中では、パソコン、スマートフォン、タブレットなど文章を作るのにコンピューターを使う機会はとても多く、漢字が書けなくても、とても便利な事に機械が文字を変換してくれます。

しかし文字が読めないと日本での生活において、とても不便です。

バスにも、電車にも乗れません。好きなマンガも読めないし、日本語のゲームもできません。

補習校の子供達を見ていると、読書好きな子は驚くほど自然に、漢字が書けなくてもよく読めます。そうはいつでも、いきなり日本語の本を読みなさいと言われても、誰もが興味を示すものでもありません。

その子の好きな図鑑、工作本、料理本、何でもいいので、まずは興味を持つものから広げていくしかないと思います。

勿論、マンガでも言葉の語彙を増やしていくためにいいと思います。

世界の伝記、童話、昔話などは、ペルシア語で書かれているものなら、それと平行して同じものを日本語の本と一緒に読んでいくのもいいです。

読書は、言葉の幅を広げ、知識を増やします。

ぜひ子供達が本に興味を持つように工夫をしましょう。

《漢字》

日本の漢字は、大人の私たちにとってもとても難しく、特に外国で覚えるのは、かなりの苦労と努力が必要です。

形だけで覚えるのではなく、意味も一緒に覚える事が大切です。

漢字のそれぞれの部分(部首など)の意味を覚えると、パズルのようにだんだん繋がっていくと思います。

また、使わないと忘れるので、習った漢字は普段からきちんと使い続けないとせっかく覚えてもすぐに忘れてしまいます。

でも、親も忙しいのにいちいち子供に漢字を教えるのも大変ですよね。

そこで、国語辞典を自分で使えるようになる習慣をつけることが大事です。

勉強する時は、必ず国語辞典を横に置いて勉強する習慣をつけましょう。引けば、引くほど、覚えます！

漢字は書くことで覚えるので、簡単な日記を付けることがいいと思いますが、普段の生活ではなかなか難しいと思います。そこで、ぜひ長い夏休みに書くとよいです。

どうしても、日記を書くことが嫌いな子は、簡単な文章を写させるのもいいと思います。

《言葉の語彙》

海外に住んでいる場合は、まずは親がきちんとした日本語を家庭で話す事が何よりの勉強になります。

敬語も丁寧語も親がきちんと使えていれば、子供も自然に覚えます。
四季のある日本ならではの言葉も、家庭で親が季節を意識し、いかに言葉の幅を広げて子供に話していくかで、語彙の量も変わると思います。

補習校の授業は週1回、2時間しかありません。
子供達にとって家庭が、そして親が何よりの教師です。
とはいっても、イランの勉強との両立、なかなか大変ですが、まずは出来る事から一つ一つ試してみてください。

最後に、家庭内で何より問題になる事です。
子供に日本語を学ばせるにあたって、親自身が日本語に熱を入れ応援する事はとても大切ですが、あまりに熱を入れすぎてしまうことは危険です。
厳しくなりすぎると、子供は想像力も学習意力も失せ、親の押し付けに対して防御的になり、さらにそれが親子間への戦争へと変わってしまいます。
親が一時的な小競り合いに勝つ事があっても、戦争自体に勝つ事はありません。
なぜなら、日本語の勉強は、親子の協力によってしか勝ち取りえません。

私の知り合いで、小学校から高校まで海外に住んでいた方がいましたが、思春期に入り親が教える日本語に反感を持ち、一切、日本語を話さず、勉強しなくなったそうです。でも、いつしか自分のルーツの国の言葉に興味を持ち、自分で再度勉強をし直し、今では流暢な日本語で仕事をしていらっしゃいます。
「あの時の、親との葛藤は何であったのだろうか？」とご本人は笑っておっしゃっていました。

この話を聞き、気長に子供の様子を見ながら、手助けしていきたいと思います。

お詫び

補習校だよりデイ月に記載されていた『バイリンガルって？』の文中で「国際結婚でも難しい、こどもがバイリンガルに育たない理由とは？」の URL が VPN(フィルター解除アプリ)がなく開けなかったと指摘がありました。今後は確認の上、掲載いたします。

編集後記

以前にテヘラン日本語補習校に在籍していた方々より、メッセージを戴きました。

補習校立ち上げメンバーでしたソライヤプール安世さんからは、ホームページの写真を見て「懐かしい。まだここでやっているんだ！こうやって受け継がれていくんだね。これから先、補習校を卒業していった子達が先生になったりするのかな？そして親となって保護者として参加する日が来るのかな？役員さん、先生方は大変だと思うけど、こ

れからも頑張って続けていってください。」と暖かいメッセージを戴きました。

そして、昨年度の教員でした石川めぐみさんからは、「懐かしいです。いろいろご迷惑おかけしてすみませんでした。何もできないけれど応援しています。」と応援メッセージを戴きました。

お二方ともに現在はイランを離れていますが、ご自身やお子さん方も日本や海外で活躍されています。在校生やみなさんの励みになればと掲載させて頂きました。ありがとうございました。

今後も皆様からのメッセージを募集いたします！

（鈴木淳子）